



このたびの震災では、私たちの大宮は震度5強の揺れということでしたが、生まれてから体験したことのない大きな揺れに、お店ではショーケースが倒壊してガラスの破片が飛び散り、トイレや外壁が剥がれ落ち、思わず建物の外に逃げ出しました。



落ち着いてみれば、ウィルとしては大した被害を受けていたのですが、大きく揺れる建物を呆然と眺めながら、社員とともにその時の慌てようつたら恥ずかしいくらいだったと思います。同じように怖い思いをした方が多いのではないでしょうか？東北で被災した皆さんとの体験したそれは、きっととはるかに想像を超えるものでしょ。

もともと私にとって仙台は、オートバイレーサー時代の18歳から30過ぎまでの間に、数10回通り詰めた親しみのある街でしたので道はわかりますし、何とかなります。

メンバーは焼津の杉井さん、震災当日を松島の被災地で過ごしたという仙台出身の真壁さんに、吉澤という3人です。

3月17日、第一便では、水を中心衣類、生理用品などをワンボックス車に満載して、仙台市内にある支援物資の集積所に向かいました。

高速道路がどの程度利用できる

3月はイベント続きの予定でしたが、東日本大震災によりすべて4月に延期をして、被災地支援中心の生活となりました。皆様からお預かりした支援物資や義援金をお届けしてきましたので、ご報告いたします。

ウイルかわら版

wil

平成二十三年
四月

第二十号

編集 吉澤 隆
ウイルさいたま
吉澤企画の皆さん

第一・一二便

新聞やラジオから流れてくる情報によれば、国道沿いにはガス欠になつた自動車が乗り捨ててあり交通の便是芳しくないそうです。さらに福島の原発のことなど不安が募るばかりでした。

ですが、支援物資を届けるなら着替えすら足りずに困つている方が多い早い時期の方が良いという話を聞き、急ぎ出発することになりました。

もともと私にとって仙台は、オートバイレーサー時代の18歳から30過ぎまでの間に、数10回通り詰めた親しみのある街でしたので道はわかりますし、何とかなります。

仙台の街は意外にも震災の跡が見当たらず、雪がうつすらと降り積もり美しく、整然としていました。しかし道路わきにはガソリンスタンドに並んだまま息絶えたと思われる、雪をかぶった車の列をいくつも見かけました。ガソリンや灯油を含めた燃料の供給はこの段階では全く追いついていない様子でした。多くの人が雪の中寒い夜を過ごしていることでしょう。



事前に警察署に避難物資を搬送する緊急車両として証明カードを発行してもらっていたのですが、こんな措置を取つているとは知らず、予想外にスマーズに仙台にたり着くことができました。

單じやないな、と思いつつも、警備員さんに「仙台にはどうやつて向かうのが良いですか？」と尋ねると、「緊急車両は高速道路へどうぞ！」と道をあけて通してくださいました。

やはり被災地までの道のりは簡便な封鎖され、一般車が乗り入れを断られていきました。

wil

ウイルさいたま

0120-797-739

（ページから続く）

お届け先である仙台市にある宮城県消防学校には、午後9時過ぎに到着しました。雪の降る仙台駅前を抜け、住宅街の中にある消防学校に入ると、夜遅くなのにボランティア（？）の方たちが待つていてくださり、到着するトラックから次々に荷を下ろしています。



その広大な敷地内には、倉庫に入りきらない救援物資がところ狭しと積み上げられ、ブルーシートをかぶせた上には雪が降り積もっています。意外に物はたくさんあります。しかし、同行した真壁さんのご親族に連絡を取ると、現地では水や食料不足に困っているのだといいます。あるところには集まり始めている物資が、まだ現地には届いていないようです。

どうしたものかと思い、もう一度物資の保管されている沼津に向かい、被害の大きかった多賀城市の真壁さんお兄さんのいる街に水を届けることにしました。夜の1時を回っていましたが、そのまま仙台南インターから高速道路に

乗り、夜明け前にもう一度積み込みを落ませて、首都高速の朝の渋滞に引っかかるないように急いでそのまま仙台に向けて出発です。そして何とか翌18日の午前中には多賀城市に到着しました。那段階ですでに走行距離は1300キロを超えていました。よく走ったもんだ・・（汗）。

被害の大きかった地区に入るとその街のありさまに驚きました。昨晩は物資を届けに仙台の街では倒壊している建物どころかガラスの割れている建物すら目にしませんでしたが、別世界のようです。

赤土にまみれた車道の両脇には壊れた自動車がおもちゃのように積みあがり、あるところではお店に突き刺され、屋根の上に乗り、初めて目の当たりにした震災被害の大きさに驚かされました。

東日本大震災、というより、むしろ東日本大津波です。波の来たところと来ていらないところでの被

は、夜景も美しく整然としているのです。津波の被害を受けた土地まで足を踏み入れて肌で感じたことを、少しでも克明に皆さんに伝えねばと思いました。

多賀城の丘の上に向かうとやはりほとんど震災の爪痕は見当たらなくなるのですが、目的地の近所では、バケツやポリタンクを持つ人たちの長蛇の列を見かけました。水の配給を待つ人たちの列です。その姿を横目に、混乱を避けるためにお届けに突き刺され、屋根の上に乗り、初めて目の当たりにした震災被害の大きさに驚かされました。



自治会長さんに僅かながら持参したガソリンをお渡ししつつお話をすると、燃料がないために物資の調達がままならず、水が出ないため震災以降は皆さんお風呂には入っていないそうです。そしてやはり、お身内やお友達を亡くされた方が多いようです。目には映らない爪痕を垣間見つつ、また来ますからね！と握手を交わして被災地を後に大宮へ。

勝手な支援活動で地元の方へのご迷惑になつてはいけないと、事前に仙台市のNPO全国コミュニティライフサポートセンターCLCさんの「ひなたぼっこ」という施設にお邪

二往復1700キロの長旅を終えました。

第三便

（ページから続く）魔をして灯油の配達先として、石巻の施設を紹介していただきました。石巻では被害が大きく物資の支援が遅れているので、日が暮れてから灯油を持つてうろつくのは危険だからやめたほうが良い、との注意をいただきました。ちょっと怖い気もしましたが、それだけ困っている人がいるなら、なおさら届けられる物資の価値がありそうです。日のあるうちにと急いで出発しました。



次に日頃よりお掃除の会でご縁のあつた仙台のホットマンさん（東北地方のイエロー・ハットさんを運営している会社です）を尋ね、数百リットルの灯油をボリタンクに移しました。お客様もいるのに触れないので倉庫の中で給油を済ませます。

ホットマンの高橋専務さん曰く「本当はお店を開けてもお客様は来てくれませんが、店を開けることで社員さんたちも気がまぎれると思って・・・」。お身内やお友達が被害にあわれた社員さんも多くいるようですし、社員さんの不

安を考えて、閉まっているお店の多い中、あえてお店を開いているのだそうです。こういった時にこそ、その会社がどんなことを大切にしているのかがわかるのだなと思いました。流石です。そして、次の話を聞いて益々すごい会社だな、と思いました。

東北地方を中心に72店舗あるホットマンさんの店舗の中で、イエロー・ハットの三陸にある店舗が一件完全に流されてしまったそうなのです。地震が起きた時に、その店舗には100名を超えるお客様と店員さんがいたそうなのです。が、まずはお客様から避難をしていただき、続いて店員さんがすべて退去したのを見届けた後に、店長さんは最後に店を後にしたのだそうです。最後尾を走る店長さんは車にはバックミラーに津波が映るほど迫ってきたのですが、何とか逃げ切ることができたのだとうお話でした。全員無事だったそ

うです。

まどまりの悪い会社だつたら、きっとこうはいかなかつたのだと思います。とても尊敬します。

灯油を移し終えるとホットマンさんの事務所に通していくだけ、炊き出しのおにぎりと漬物、カツ丼、ラーメンを出していただきました。社員さんたちのために準備した貴重な食料のはずです。ひとつ噛みしめてごちそうになります。

続いては先ほどご紹介をいたしました石巻の老人ホームさんのところに灯油を届け、最後には石巻の被災地から避難してきたご老人を中心とした皆さんのが生活する施設を訪問しました。



老人病院などから避難してきた人も多いといいますが、被災のショックと生活環境の変化からか、震災の前までは普通に歩き回っていたのに、わずか数日の間に寝たきりになってしまったという方もいるそうです。「こんなに天井の高いところじや寝付けないわよ。」布団の上にちゃんと座った老人が、ボソッとつぶやいていたのが印象的でした。多くのボランティアの方々が忙しく働いているのですが、まだ物資の供給が追い付かないわよ。」布団の上にちょこ

んと座った老人が、ボソッとつぶやいていたのが印象的でした。多くのボランティアの方々が忙しく働いているのですが、まだ物資の供給が追いついていないということは、それだけ屋外で改修工事を続けてくれた人たちがいるのだということです。はるかに離れた関東でも不安を感じている人が多いというのに、頭が下がります。

帰路についてもう一つ驚いたことがあります。前回宮城にやつてきたときは、まだ震災の後で高速道路にひずみが出て車が飛び跳ねるようになってしまったのですが、今回は早くもその段差の多くが修復されて平らになつていています。とにかく原発の心配のある福島県の区間の段差がひどかつたはずなのですが、そこが直つていているということは、それだけ屋外で改修工事を続けてくれた人たちがいるのだということです。はるかに離れた関東でも不安を感じている人が多いというのに、頭が下がります。

いいえ。支援物資届け先を探して役所の支援センターさんに問い合わせると、物資は間に合つているとの回答を受けることが多いですが、現場に足を運ぶとまだその通りではありません。そこで、避難所の様子をお見せしたいところですが、そこにいらっしゃる方の心地を考えて撮影は控えさせていただきました。



（）ページから続く
子供たちのことを考えると、射線の影響など過剰に気になってしまふところがありますが、せめて子育ての終わつた私は、つてばかりでなく何か自分たちにできるを探さなければと思ひました。

第四便

3月26日、フィンランドに住む日本人のお母さんたちが、被災地の赤ちゃんのために、「液状ミルク」のパックを2000本、航空便で送ってくれました。乳児用のミルクといえば脱脂粉乳をイメージしていましたが、これはヨーロッパ社というフィンランドの会社で作られたもので、水の供給がない被災地ではミルクをお湯で解いてそれを冷まして・・・という手間のいらない使いきりのミルクのパックが重宝されるのだといいます。その到着に合わせて成田空港まで引き取りに行きました。通関を終えたミルクたちと対面するとその一つ一つに手書きの応援メッセージが書かれていました。

4回目とあつて大分勝手がわかるようになつてきました。
まず、旅の初めはいつも、給油をさいたまで済ませ、夜食や朝食としておにぎりを買い込みます。被災地では食料や燃料が不足して行つた私たちが現地の貴重な水や食料を食べてしまうわけにはいきませんし、燃料についても同様です。私たちの車両は「緊急車両」として登録しているので優先的に給油をしていただくことができ

ます。途中からは一般車両は通行止めとなり、三陸自動車道と乗り継ぐあたりになると、まわりを走つているのは自衛隊の車と緊急車両だけになります。

東北自動車道から、今回被害の大きかった湾岸地域を通る仙台東部有料道路に乗り継ぐと、高速道路の東側は津波の被害を受けた地区が続きます。途中からは一般車両は通行止めとなり、三陸自動車道と乗り継ぐあたりになると、まわりを走つているのは自衛隊の車と緊急車両だけになります。

まるで被災地で分けていただけではなくわけにはいかないので、地元大宮で予備タンクにたっぷりと燃料を入れて現地に持ち込むのです。
そして渋滞を避けるために交代で夜通し走り、日が明けるころに被災地近くに到着するように逆算して、夜一時ころに出発しました。

施設には、朝7時30分ごろ到着しました。ヒューマンシールド神戸の吉村代表が取り仕切るその施設は、朝から活氣があります。次々に届く物資をその場で仕分け、これから配送する車両にも積み込まれていきました。ボランティアのスタッフが、今



17日に初めてお届けした支援施設とは大きく違い、フィンランドのお母さんたちの思いのこもつたミルクたちがその場で生かされていく姿に感動しました。みなさんからお預かりした衣類やオムツ、レトルト食品などもお届けし、次の目的地に向かいました。



まさに届けたばかりの乳児用ミルクを必要とする人たちのもとへ運んでくれるのであります。

(ページから続く)

二件目の目的地に向かおうと力ナビゲーションを入力したのですが、どうやら違う住所を入力してしまったようです(汗)。見知らぬ山間の細い道を走つていくと突然目の前の景色が広がり女川の漁村に行き当たりました。



何とか瓦礫をかき分けて車一台が通れるだけの一本道が通してあるのですが、その脇には周りの山沿いの高台にまで及ぶ瓦礫の山がただあるだけ。20メートルもあるかと思われる高台にある一軒家が、何とか形を維持してはいるのですが、その二階の屋根の上にまで瓦礫が乗かっていました。町が一つ丸ごとミキサーにかけられて、そのまま放置されたようでした。

おそらく高台に避難した人たちもまとめて、波に飲み込まれていったのだと思います。ここで生き残った人たちがどんな気持ちでいるのか?テレビでもラジオでも新聞でも、がんばろうニッポン、復興などという言葉が連呼されていますが、この女川で生き残り、家族や街や職場までを失った人たちにとっては、まだちょっと重荷になってしまことがあるかな、と思いました。復興していく街の絵が、今はまだ想像もつかないかもしれません。



被災地に足を踏み入れてから何度も、「想像を絶する」という言葉を使つきましたが、今までにも増して、テレビの映像からは想像も及ばない見当たらない、絶望的な景色でした。

それは何と言つて表現をよいのかが見当たらぬ、絶望的な景色でした。

続いて二件目は前回に続いて訪れる石巻の避難所となつてゐるかなん物資をお渡ししようとする、なんと前回から責任者が変わつてしまつたようで、確認が取れず荷が降ろせないとのこと。先に紹介をいただいたNPOさんに連絡をしても担当者



ないような光景でした。言葉では語りきれません。海まで続く瓦礫の山に手を合わせて、第二の目的地に向けて引き返しました。

避難施設、かなんホール



(△ページから続く)
が見つからず、2時間ほど待つた後に荷を納める事ができました。担当の方から伺った話によると、24時間体制で避難所に詰める責任者たちの疲労がピークに達し、各施設でダウンする方がいるのだというのです。支援する側も戦争のようです。

りの分のガソリンまで置いてきてしまったため、ゆっくり並んで給油を落ませ、温かいそばを味わって食べ、あとはひたすら走るのみです。さすがに連日の強行軍にバテて、帰りは助手席でぐっすり眠つてしましました。運転ありがとうございました。運転ありがとうございました。う、真壁さん。

被災地支援の不規則な生活により、先月号で宣言したダイエット難航中！体重が全く変わりません！！！！！
二つの目的地にみなさんから預かった大切な物資をお届けし、それから18日にお邪魔した多賀城の方々の水と予備を持ってきたガソリンをすべてお渡しして、帰路につきました。

夕方の東北自動車道はすっかり車が多く、サービスエリアのガソリンスタンドには相変わらず長い行列ができていました。気前よく帰

待っている間に、前回のカキ養殖所の男性を見かけて話しかけると、ずいぶん前より元気になつているようでホッとしました。ボランティアの方々の活躍のおかげですね。

各施設ごとに、またその時によつて必要な物資は変化しているようですが、今は足りてきています。でもズボンやパンツだけはまだ求められています。オムツから漏れて粗相してしまつたような衣類は、水がないのでそのまま捨てているような状態なので、不足してしまいます。徐々に水道が通つた地域も増えていますし、今後も必要とされるものは変わっていくでしょう。

無駄にしては申し訳ないので、これから支援を考える方は是非受け入れ先に確認することをお勧めします。

その一方で、支援施設では余剰在庫を抱えて受け入れをストップしている物資が、実は被災地には行きわたっていない、等ということもあります。ですからもし

可能であれば、物資を受け付けている人に聞くのではなく、物資を配送している人に聞く方が現地の情報を正確に聞くことができるのではないかと思いました。
また一口に被災者といつても、被災した場所、被害や失ったものなどは様々ですので、その方によって必要な支援は違つてくるのだと思います。とにかく物資の必要な方、応援の必要な方、そしてただ寄り添つてお話を聞いて差し上げるくらいが良いというような方など。私たちとしても一時にパッと盛り上がりがつて終わにせず、長期的なお手伝いができるかと考へています。

今回の支援活動にあたつて、支援物資や義援金を持つてはるばる弊社までお越しくださつた皆さん、本当にありがとうございます。私がどうございました。水やコメ、インスタント食品など、震災後にはなかなか手に入らなかつたものも多かつたことと想います。それに、自分たちの分まですべて被災地の方のために届けてくださつた方も多い、この皆さんのがいを早く届けよう！と励みになりました。

お預かりした義援金につきましては、物資の搬送に使つた車両の燃料代などに一部あてさせていただいておりますが、もう一度被災地へ支援物資をお届けしたのに、震災から一度精算し、残金につきましては日本赤十字社の東日本大震災義援金窓口の方へ募金させていただきます。

4月の建設的な生き方を学ぶ会

講師：杉井やすゆき先生

4月14日(木) 18時半～

さいたま建設的な生き方を学ぶ会
(大宮、ウィル)

※ウィルの吉澤が主催しております

4月14日(木) 13時半～

横浜建設的な生き方を学ぶ会

(石川町、横浜地域職業訓練センター)

※横浜在住の素敵なお嬢達が主催しています

～お申込みはお電話で～

0120-797-739

大宮駅前街頭清掃

日時：4月23日(土)

10時半～

集合：大宮駅西口駅前デッキ2階
(アルシェ前)

持物：軍手・タオル

※お茶タイムの差し入れ大歓迎！
お掃除ボランティアと、その後にお茶会をします。途中からの参加も大歓迎ですよ。

これからもたびたび足を運ぶことがあるかと思いますが、もし一緒に届けたいものがある時には、声をかけてみてください。

